

# なでしこ通信 第 43 号

《隔月発行》

## — 目 次 —

- ★今こそ「家庭基盤の充実」を  
高崎経済大学教授 八木 秀次
- ★第 2 回研修会のご案内  
家族の絆 ～拉致問題を考える～  
講師 中矢民三郎氏, 重松圀右氏, 大政悦子氏
- ★第 1 回研修会のご報告
- ★園長先生にお聞きしました！
- ☆事務局から

## 今こそ「家庭基盤の充実」を ■ □

高崎経済大学教授 八木 秀次

八木先生は『正論』12月号で、『Voice』10月号に掲載された野田佳彦首相の「わが政治哲学」という論文を取り上げておられます

さて、この野田論文だが、首相は「いまあらためて学ぶべきは、大平正芳さんの政治のあり方ではないか—私は最近、とみにそう思うようになった」とし、大平内閣が国の新しい展望を提示すべく9つのテーマについて研究会を立ち上げたことに触れている。大平内閣の功績については今日もっと再評価されていていいし、その限りでは首相の姿勢に私も大賛成だ。が、問題は首相が大平内閣の打ち出した姿勢をどれだけ正確に理解しているのかとい

### めざす会第10回講演会

高橋史朗先生 なぜ今 親学か～親育て支援の最新動向～  
平成24年3月3日(土) 14時～16時 開場 13時半  
砥部町文化会館 大会議室 入場料1000円 学生無料

うことだ。一例を挙げてみよう。

野田首相が言及した大平内閣が取り組んだ9つのテーマの1つに「家庭基盤充実研究」がある。大平内閣は昭和54年3月、経済学者の伊藤善市東京女子大学教授を議長とする「家庭基盤充実研究グループ」を組織し、その研究成果『家庭基盤の充実』を55年5月に発表した。学習院大学教授の香山健一氏と東京外国語大学教授の志水速雄氏が書いたもので、グループには小堀桂一郎や佐藤欣子氏の名前が見える。

内容は54年8月発行の自由民主党研究叢書『日本型福祉社会』を踏襲し、簡潔に言えば、国家や地方自治体が国民の福祉を全部みるのは無理であり、健全な勤労意欲も失わせる。まずは国民一人ひとりの自助努力が必要で、その上で家庭・地域・企業・同業者団体が国民の福祉を担い、国家は最後のセーフティネットとなるべきだ。そのためには家庭が福祉を担う存在として国はその基盤を充実させる政策を採るべきだというものだ。実際、この「家庭基盤の充実」構想からその後、配偶者控除の充実や配偶者特別控除の導入・拡充、同居老親の特別扶養控除の導入、専業主婦の第3号被保険者制度の導入など、家庭を子供や高齢者の福祉を担う存在として財政的に支援する政策が次々に採用された。

現在、老齢年金の支給開始年齢を厚生労働省が満68歳へ引き上げることを提案したことが物議を醸している。また、現在の支給額で老後の生活は大丈夫か、将来、年金は支給されなくなるのではないかとの懸念も強まっている。実際、単身や老夫婦だけの世帯であれば、現在の、またこれから減るであろう支給額では生活は困窮する。このまま少子高齢化が進めば年金財政破綻も必至だ。大平内閣が想定していたのはそのことだった。例えば老親が子供と同居すれば、現在の年金支給額でも困窮することはない。それを国が税制面でも支援し、導こうではないか。大平内閣やその後の内閣が打ち出した政策はそうだった。しかし、今、野田政権は逆の政策を採ろうとしている。小宮山洋子厚生労働大臣は家庭基盤の充実ではなく、専業主婦撲滅に躍起になっている。

が、家庭基盤の充実と逆方向に進む政策は民主党政権に始まったことではない。橋本内閣が男女共同参画政策に傾倒して逆方向に進み、小泉政権が「構造改革」の名の下に家庭基盤の充実政策を否定的に扱った。そして民主党政権は『男女共同参画第3次基本計画』で税や社会保障について「世帯単位から個人単位へ」の制度・慣行の見直しを明言した。が、これは大平内閣が懸念した国家破綻への確実な道なのだ。

私は30年以上も前に現在の事態を予測してその打開策を提示した大平内閣の功績を再評価すべきだと考えている。野田首相が『Voice』論文で述べたこともそのような文脈においてでなければならない。

## 第2回研修会のご案内

### 『家族の絆 ～拉致問題を考える』

日時：1月7日（土）13:30～15:30頃 開場 13時  
会場：砥部町文化会館（089-962-7000）3階 視聴覚室  
講師：中矢民三郎氏（救う会愛媛 会長）  
重松 光圀氏（大政由美さん連絡会 会長）  
大政 悦子氏  
入場料：1000円（茶菓・資料代） 学生：無料

大政由美さんは、平成3年3月に三重大学人文学部社会学科を卒業され、考古学に関連して韓国の旧跡を尋ねるため下関からフェリーで釜山港へ。バスで慶州市に入り市内観光後、ユースホテルに宿泊。28日に部屋に荷物をおいて同ホテルを出て、午後行方不明となってしまう。同年4月10日から現地の警察当局により捜査が開始されましたが、現在に至っても行方が分からず真相は明らかになっていません。

愛媛県には他にも今治出身のお二人の特定失踪者がおられます。ご家族のご苦悩は如何ばかりでしょう。

人権侵害、主権侵害をされながら拉致被害者の救出にむけて何の進展もみられないまま月日が経っていきます。心ある日本人の怒りは沸点に達しようとしています。こんな状況下で私達にできることは何でしょうか。一緒に考えて参りたく存じます。

#### DVD鑑賞会

442日系部隊～アメリカ史上最強の陸軍～

平成24年1月29日（土）10:00～11:40

砥部町文化会館3階視聴覚室

.....\*\*\*\*\*.....

名誉のために命を賭け、栄光と偏見に挑んだ65年目の真実  
兵士たちの最後の証言で綴るドキュメンタリー

## 第1回研修会のご報告

11月27日に開催された森川建司氏の災害派遣のお話を愛媛新聞が取材。素晴らしくまとまった記事を掲載していただきました。

H23.11.28

東日本大震災被災地への災害派遣体験を語る  
森川建司氏 27日、砥部町文化会館

**地域住民の自助大切**  
災害派遣の元自衛官語る 砥部

東日本大震災の被災地、約70日間、自衛官として災害派遣された森川建司氏（愛媛銀行人事部付担当部長）が27日、砥部町文化会館で講演。「避難訓練をするだけでも家族と地域の絆が強ま

り、身を守る」と体験談を語った。健全な男女共同参画社会をめざす主催。香川県善通寺市の駐屯地で勤務していた森川氏は3月15日から5月29日まで、宮城県石巻市や女川町での災害活動に従事した。

森川氏は「遺体を発見したら家族のように扱い、すべての活動で被災者に寄り添った」と述べ、いたみの激しい遺体の収容は隊員の精神的負担も大きく、1週間の帰隊で戦力を回復させたと労苦の一端も明かした。今後の教訓として、被害想定の見直しや救出隊が到着するまでの住民の「自助」を提案した。

一方、政府の対応は「会議ばかり立ち上げてくる回り、指揮官がいなかった」と批判。派遣終了後、犠牲者の慰霊と復興祈願のため四国霊場八十八カ所を1カ月かけて歩き遍路したという。

(西山秀和)

## ◆ 園長先生にお聞きしました！

11月8日の学習会で、さくら幼稚園の堀司園長（55歳）に保育の現場のお話を伺いました。学校を出られてから20年ほどクラス担任をされ、現場から上がって園長先生になられた県下唯一の男性園長だそうです。多賀神社の宮司さんでもあられます。

堀園長はご自身の子供の頃に較べられて、子供たちは変わっていないと思うけれども、子供たちを取り巻く環境がこの10年変わってきたと感じるとおっしゃっておられます。2時間のお話の中のいくつかを今回、2,3ご紹介いたします。

### 《過干渉》

母親が子供に1対1で構うので、どうしても過干渉になります。お迎えに来たお母さんは子供を座

らせて自分が靴を持って履かせようとしします。私はそこでお母さんに言ってあげるんです。お子さんが自分で履こうとする意欲を摘み取っておられますよ、と。

子供にやって上げていることを全部、ご主人にしてあげたら、ご主人はすごく喜んで「よーし、今日も頑張るぞう」と張り切りますよ。

靴を履かせるのではなく、これが「靴」でこうやって履くということを教えて下さいと言います。お母さんは帽子のかぶり方を教えていると言われますが、子供は頭を突き出すだけです。園では4月に、「これが『帽子』っていいいます。こうすることを『かぶる』と言います。やってみましょう」と自分でかぶることを教えます。

### 《親の自覚》

その子のお母さんに代われる人はいない。どんなに先生が大好きって言ってくてもお母さんにはかなわないんです。そこを親御さんに自覚していただきたい。この子には自分が母親なんだ、父親なんだという自覚を持つことで親子の絆を繋いでいかないと。いつも預けっぱなしだから、逆にたまに親と一緒に時にはなついてくれないと困る。だから小言を言いたくない、機嫌をとるわけです。そうすることで親の威厳というのはなくなるし、間違いなく言うことは聞かなくなるでしょう。

子供はどんなに叱られても親が一番好きです。泣きながらでもついて行きます。叱ることが親の責任でもあります。その子のためを思って叱ると絶対に通じるはずですが、愛すること＝いろんなことを細かく気をつけて上げる、だけではありません。ほんとうは厳しさも必要です。

## ■◇■ 事務局から ■◇■

◆3月3日（土）桃の節句の佳き日に、高橋史朗先生にお出でいただき『親学講演会』を開催する運びとなりました。

高橋先生が理事長をされている「一般財団法人 親学推進協会」は曾野綾子氏の会長就任が話題を呼んだ日本財団（財・日本船舶振興会）の助成事業です。PHP親学研究会から『「親学」の教科書』と『親学アドバイザーの手引き』が出版されています（いずれも1680円）。タイトルはいかめしい気がしますが、とても読みやすく子育てにすぐ活かせる知恵が満載です。子育て中の若い親御さんへのプレゼントとして最適ですし、親学講演会の「予習」にも欠かせないかも…。めざす会でもお取り扱いいたします（送料1冊80円、2冊140円）。

◆めざす会では毎月2～3回、月曜日にランチ学習会を開催しております。お気軽にご参加下さい。

◆椿祭り（1月29日～31日）での救う会の活動にご協力下さい。めざす会の担当は1月

30日（月）正午から2時まででございます。ご協力下さる方は青井までご連絡下さいませ。

◆年会費（1000円以上）の切れる方に払込取扱票を同封しております。会員1000名を目指しております。現在771名でございます。よろしくお願い申し上げます。

◆番外のお知らせ—DVD鑑賞会 『442日系部隊～アメリカ史上最強の陸軍』～名誉のために命を賭け、栄光と偏見に挑んだ65年目の真実。兵士たちの最後の証言で綴るドキュメンタリー～1月29日（日）10：00～11：40 砥部町文化会館3階視聴覚室。

## 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp)（件名を明記してください）